

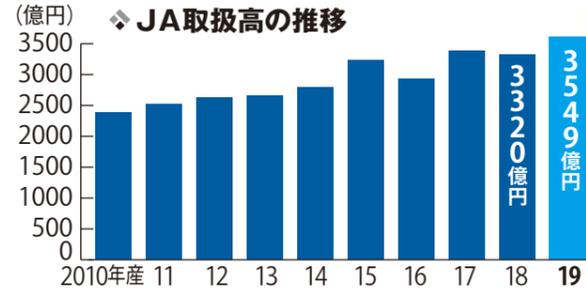
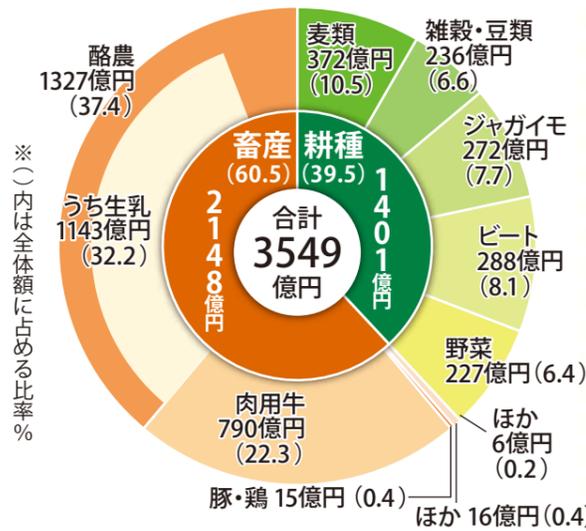


少雪や春先の干ばつの影響が懸念されたが、粒が大きく、製品の歩留まりも高かった2019年産の小麦(2019年7月、土幌町で)

十勝農業 過去最高3549億円

耕種・畜産とも増収

◆2019年産管内24JAの取扱高



2019年の十勝農業は、管内24JAの農畜産物の取扱高(概算)が前年比7%増となる過去最高の3549億円を記録した。全体的に生育が良好だった耕種(畑作)、乳価が上昇し、枝肉価格が堅調に推移した畜産がともに増収。21年までの目標として掲げた「3500億円」に、2年前倒しで到達した。

全体の6割を占めるのが畜産部門。酪農・肉用牛ともに伸び、前年比5%増の2148億円。畜産部門では過去最高で、2年連続で2000億円を超えた。

酪農は生乳生産が年間を通じて前年を上回る水準を維持。肉用牛は枝肉価格や素(もと)牛取引価格が堅調に推移した。

2019年の十勝農業は、管内24JAの農畜産物の取扱高(概算)が前年比7%増となる過去最高の3549億円を記録した。全体的に生育が良好だった耕種(畑作)、乳価が上昇し、枝肉価格が堅調に推移した畜産がともに増収。21年までの目標として掲げた「3500億円」に、2年前倒しで到達した。

中でも小麦は好天で収量が前年を上回り、32%増。豆類は7月の低温・日照不足が生育に影響を与えたが、収量が前年を超え、価格も堅調に推移し27%増。ジャガイモは作付面積が減少したが収量が前年を超え、5%増となった。

今年1月には日米貿易協定が発効され海外産品との競争が激しくなるが、十勝地区農協組合長の有塚利宣会長は「安心安全の品質面で差別化を図る」と強調。十勝農協連の山本勝博会長は「販売力を強化し十勝ブランドとしてPRしていく」と語っている。

平成30年度
**地球温暖化防止活動
環境大臣表彰**
技術開発・製品化部門

寒冷気候は宝

貯蔵熟成氷室

TSUCHIYA

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

地球温暖化ガス 排出ゼロ

平成29年度新工ネ大賞
新エネルギー財団会長賞

世界の寒冷地に
適応する、
クリーンで安全な
地域資源の活用

アイスシェルターは水と寒冷気候をエネルギー源とした千年氷室
自然エネルギーだけで冬は0℃まで暖房、夏は0℃まで冷房

Think globally Act locally

株式会社 **土谷特殊農機具製作所**

札幌支店 / 帯広営業所 / 釧根営業所 / 中標津営業所 / 北見営業所 / 八雲営業所 / 興部出張所

本社 / 〒080-2461
帯広市西21条北1丁目3番2号(西帯広工業団地)
TEL 0155-37-2161・FAX 0155-37-2751
http://www.tsuchiyanoki.com

モンゴル EVERYDAY HARM社と
アイスシェルターで業務提携